

Economic Indicators

発表日: 2024年10月31日(木)

景気動向指数(2024年9月)の予測

～一進一退の動きが続く～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

均してみれば一進一退

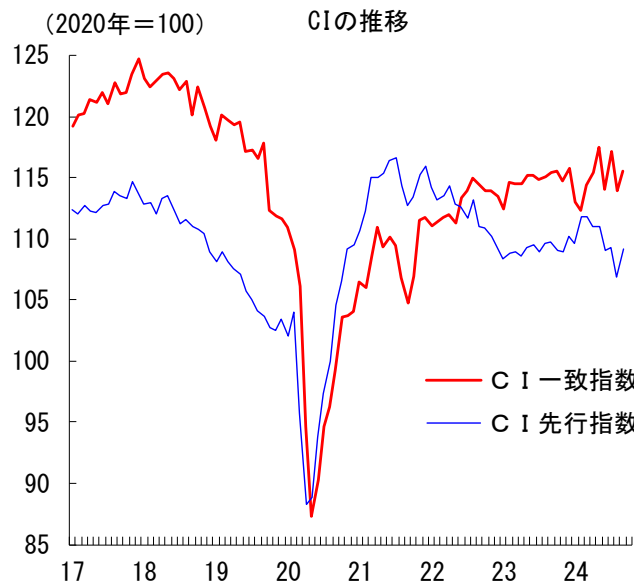
内閣府から11月8日に公表される2024年9月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.6ポイントと予想する。前月差プラスだが、台風襲来に伴う工場稼働の停止で8月分が下振れていたことの反動が出た面が大きい。C I一致指数を7-9月期平均で見れば4-6月期を▲0.1ポイント下回るとみられ、均してみれば一進一退の動きが続いていると判断される。なお、9月の内訳では、生産財出荷指数や耐久消費財出荷指数、輸出数量指数などがプラスに寄与する見込みである。

基調判断は「下げ止まり」で据え置きの見込み

C I一致指数の基調判断は、前月に続いて「下げ止まり」が予想される。9月のC I一致指数の7ヶ月後方移動平均前月差は3か月連続のプラスとなるが、「上方への局面変化」への上方修正基準は満たさない。

先行きについても不透明感は強い。10月の製造工業生産予測指数は前月比+8.3%の大幅増産が見込まれているが、生産用機械工業の生産用機械の極端な伸び(前月比+40.5%)によって押し上げられている面も大きく、実現性には疑問符が付く。仮に何らかの特殊要因により実際に生産が増えたとしても、11月の反動減は大きくなるだろう。また、海外経済の停滞が続くことが予想されるなか輸出の増加に多くは期待できない状況であるほか、これまで極めて好調だった電子部品・デバイスでペースダウンの兆候がみられるなど、先行きの生産動向には不透明感が強い。

10月に増産となれば、C I一致指数の基調判断が「上方への局面変化」に上方修正される可能性はあるが、そのまますんなりC Iが回復軌道に乗ると見るのは楽観的過ぎるだろう。当面、方向感に欠ける動きが続くことが予想される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2024年9月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

